

新春座談会



「市民とともに夢のある まちづくりを」



戌



語り合った人たち

下浜区区长を現在まで長年務められ、現在、岡谷市区長会会長としてご活躍されている

赤羽 晴夫 さん

高齢者団体の活動に長年係わり、現在、岡谷市高齢者クラブ連合会会長としてご活躍されている

西條 松治 さん

マスコミ関係に長年務められ、現在、岡谷市行財政改革プラン策定市民会議委員長としてご活躍されている

廣瀬 博人 さん

青少年の健全育成に長年係わり、現在、岡谷市壮年会会長としてご活躍されている

宮入 重人 さん

婦人会の活動に長年係わり、現在、岡谷市連合婦人会会長としてご活躍されている

宮坂みや子 さん

ボランティア活動に長年係わり、現在、おかやボランティア連絡協議会事務局長としてご活躍されている

矢崎よし子 さん

林 新一郎 市長

矢島 政樹 企画部長 (進行)

新しい年、平成18年（2006年）が始まりました。今年も市民のみなさんが安全で安心して健康に暮らせるまち、住んでみたい住み続けたいまちを実現できるように英知を結集して独自性のある、特色のあるまちづくりを推進してまいります。

これからは、市民のみなさんと市との協働によるまちづくりが必要となってくるわけですが、今回は「市民とともに夢のあるまちづくりを」というテーマで、各界でご活躍されている6人の方にお集まりいただき、林市長と新春らしく明るい一年となるよう座談会を行いました。



市長

岡谷市では現在、岡谷市行財政改革プランを策定中ですが、これは昨年2月に行財政改革プラン策定市民会議を設置し、本日出席いただいております廣瀬委員長を中心に、これまでに25回に及ぶ会議が開催され、意見交換や議論を深める中でご意見、提言をいただきできております。また、広く市民のみなさんの声を反映するため、素案を公開しパブリックコメントをいただきながら、プラン策定に活かしてきております。将来にわたり、必要な市民サービスの提供を確保すると共に、各課題に的確に対応し、独自性のある、特色のあるまちづくりを末永く継続していくことができるような財政基盤の確立を目指していくものにしたと思っています。

今後は、このプランに基づき、大変厳しい財政状況の中にあっても、夢のある岡谷市の特色を活かしたまちづくりをしていくことが、私の責務だと考えております。

本日は、新春座談会として各界でご活躍されているみなさんにお集まりいただきましたので、新春にふさわしく明るい1年の幕開けとなるような夢のあるまちづくりについて、忌憚のないご意見をお聞かせいただければありがたいと思っておりますので、緊張されずに、お

茶の間にいるような気持ちでお気軽にお話してください。

これからの行政に望むものは

企画部長《進行》

みなさま、それぞれのお立場で常に行政を見ておられるわけですので、日頃からこんな点をこうしてほしいとか、こうしたらいいのにと感じていることをお聞かせください。

廣瀬さん

岡谷市の行財政改革プラン策定市民会議の答申が終了し、今年はプランの初年度に当たる年です。岡谷らしい自立のまちづくり、市民総参加による夢のあるまちづくりと協働による夢のあるまちづくりという形で非常に厳しい財政状況の中、市民が市長さんと一緒に進めていく新しいまちづくりを進めていく必要性があると思います。厳しけれども夢のあるまちづくりは、市民がみんなで知恵を出し合って共に携えていくことが大事であると考えています。この1年間は答申された内容をきっちり見極めながらがんばっていただきたいと思っております。

宮坂さん

岡谷市は合併をしない自立の道を歩み始めているわけですが、その道のりは大変厳しいものだと思います。特に財政面におきまして、当然私たち市民に負担がかかってくると思います。負担することとは仕方がないことだと思えます。ただ、現在色々な見直しが進められているかと思いますが、その見直しは、私たち一般住民の感覚で見直し、考えていただきたいと思えます。人件費、組織を見直して、今までのような行政規模は縮小していった方がいいと思います。しかし、そのためにサービスの低下となつては困りますので、職員の

矢崎さん

私はボランティアをやらせていただいておりますが、ボランティアは大概の人が多かれ少なかれ経験があると思います。これからは、ボランティアにお任せ、行政にお任せとお任せだけではうまく事が進んでいかないと思えます。自立をするためには、ボランティアと行政が一緒になって進めていくことが大切ですので、より大勢の方にボランティアに参加していただきたいと思えます。

市長

みなさんの活動は、市民総参加のまちづくりを具現化していただいております。市民のお手本となるもので、大変感謝しております。ボランティアだけではどうにもならない、行政でなければ出来ない分野もあります。そのような分野につきましては、ボランティアがスムーズに取り組めるように行政が責任をもって対応したいと思っております。





まつはる
西條 松治さん

わっています。先程来、夢のあるまちづくりというお話がありますが、この夢も人に頼ってはいけません。ことだと思っています。市民と行政が一緒になって、夢を作っていくかなければいけないと思います。

して、空洞化が著しい岡谷の産業の中で、スマートデバイス^{スマートデバイス}の産地形成という大きな目標が生まれてきました。既に数十社が非常に難しいと言われております、ナノテクノロジー（10億分の1mの加工技術）に果敢



みやさか
宮坂みや子さん

西條さん

岡谷市は県下一の福祉都市を指すという大きな目標を掲げて今日まで歩まれてきたことと思います。広域合併ができず湖周合併もできないという、非常に厳しい財政状況の中で、岡谷市はこれからのように独自に歩んでいくのことも心配しておりますが、我々高齢者クラブでもお役に立てることがありましたら協力していきたいと思っています。

宮入さん

福祉の問題の中で、共に生きるという言葉がありますが、これは福祉だけの話ではなく、現在の社会情勢の中では、行政と市民と共に生きるということが大事だと思っています。以前は、行政に「おんぶに抱っこ」という言葉がありましたが、そのようは時代は既に終

赤羽さん

自分たちのまちでありますので、協力するというよりも、当たり前前の事であるという考えで活動していきたいと思っています。

岡谷市の基本理念としては、市民総参加のまちづくりをいかにしていくかということに絞られていくかと思えます。市と市民との協働をキーワードとして、具体的な計画あるいは策定また、削減効果を具体的に市民に対して示していくことが必要であると思えます。市民のみなさんが市長さんを手助け、みんなで岡谷市を良くしたいという思いが大切です。

市長

岡谷市は、ご存知のとおり絹のまちから、精密工業のまちに移り変わりました。現在、海外シフト

それから、絹のまち岡谷ということですが、全盛期には市内に機屋さんが数十件あったそうです。現在は、おみや織工房で機を織れ

る女性が約100名位育つてきております。北海道では、ウールを使って織物を織る優良良織工芸館があり、年間で20〜30万人が訪れているそうです。また南は石垣島に、綿糸を使った織物の館、みんな工芸館があります。ここも年間で20万人前後の人が訪れているそうです。この監修を「おみや織工房」の宮坂博文先生が行ったそうです。

本当に人々が欲しがっている物を手作りして提供すれば、北はウール、南は綿糸、岡谷は絹ということとで年間20〜30万人の来客も夢で





はないと思っています。

また、塩嶺の小鳥の森に観光バスが来るようになりました。武井武雄の「童画」の精神を継承発展させるイルフビエンナーレ「日本童画大賞」も全国から多数の応募がありました。その他に太鼓、うなぎ、スケート、バレーボールと岡谷には良い素材がたくさんあります。これらの素材を上手く結びつけて特色のあるまちづくりをみなさんと共に構築していかなければいけないと思っています。

廣瀬さん

各地に行きますと、岡谷には蚕糸博物館、シルクがあるじゃないか何故それをもっと大きくアピールしないのかと聞かれます。群馬県の富岡では世界遺産に登録しようとしています。岡谷には富岡以上のものがあるのですから、持っている良い素材を活かしていくこ

とが大事であると考えます。

それから、行財政の中にも民間の活力をということをよく聞きます。民間の良いところを活かしていく、行政と民間とがタイアップして、民間の感覚を活かしていくことが大切であると思います。

私は、「夢は見るものではなく、実現するものである」をモットーとしています。そのためには、市長さんに先頭に立っていただいて、民間の感覚を活かしながらがんばっていただきたいと思っています。

岡谷はシルクがベースとなりテクノへと発展したまちです。小さな企業でも製糸業全盛の時代に培った岡谷魂の、出し窯精神でがんばってきた社長さんが多いまちですから、何があっても乗り越えていけるまちだと思っています。

宮坂さん

岡谷だけに限ったことではないのですが、企業が海外に進出してしまうのは何故でしょうか。



と 重人さん
しげと 重人さん
みやいり 宮入

市長

これは、資本そのものは岡谷の資本です。例えば言いますと、本社には30名位しか従業員はいないが、海

方法はないのでしょうか。

確かにそのとおりです。そこで、海外では真似のできないテクノロジというところで、ようやく見つけたのが、ナノテクノロジです。

市長

廣瀬さん

人件費が安いため、海外への進出は避けられないことだと思えます。そこで、行政に望むことは雇用促進につながる企業の誘致をぜひともお願いしたい。働く場所の確保で地域も潤っていくと思います。

市長

そうですね、企業の誘致は積極的に行なわなければいけないことだと考えます。人口増にもつながる重要なことだと思っています。



矢崎さん

人件費が安いからといって、企業がみんな海外に行ってしまうと、若者の働く場所がなくなってしまうま

これは、資本そのものは岡谷の資本です。例えば言いますと、本社には30名位しか従業員はいないが、海



と 博人さん
ひろと 博人さん
ひろせ 廣瀬



それから今年度は、岡谷病院と塩嶺病院の統合という大きな事業が具体的に動き出します。まずは経営統合から入っていき、その中で診療統合を考えていきます。

そして、診療統合がなされた段階で新しい病院の明確な構想、建替えの年次計画を立てていこうと考えております。診療報酬がさらにマイナス改定され、医療環境は厳しいものになり、経営も大変になると予想されます。そのような厳しい病院経営の環境の中で、市民はもちろん、諏訪圏域、上伊那地域などにも貢献できる病院を造っていくという大きな夢を実現したいと思っております。

私は、夢は実現できるものだと考えております。夢の病院造りに向かって、段取り調整で7割、経営統合で8割、診療統合で9割、最後に病院の建設で10割とホップ・ステップ・ジャンプでいきたいと思っております。

市民の役割 として何が

企画部長《進行》

市民のみなさんからみて、まちづくりをしていく上での役割としてどんなことが考えられるか、それぞれお聞かせください。

宮坂さん

一人でも多くの市民が、今まで以上にまちづくりに参加して、みんながボランティアに参加していただきたい。ボランティアをする中で、これから自分たちが何をしたいか、これからの見つかると思います。それが、私の考える市民総参加のまちづくりだと思っております。なるべく行政に頼らず、市民がお互いに助け合い協力していく、互助共助の精神で夢のある明るいまちづくりをしなければと思います。

矢崎さん

ボランティアとは、何をしたらいいのか分からないという方が大勢いると思います。そのような人たちにも声を掛けて、一歩踏み出してもらうということができればいいなと思います。ボランティアは、縦のつながりはあるのですが、横のつながりがありません。ボラ

ンティア同士でつながれば、より地域全体が見えてきて、多くのみなさんにアピールができると思います。

小さな集まりから多くのみなさんが加わっていただくことにより、先が見えてくるのではないかと思います。

西條さん

ボランティアをしている人の中には、これだけ世のために尽くしているのだからと、いくらかでも報酬が欲しいと言っている人がいるようです。それでは、ボランティアではないと思います。ボランティアを行なう人の意識改革をしていかないと困ります。

宮入さん

ボランティアというところ、構えられてしまうという傾向があるのではないかと思います。

以前に、こんなことがありました。冬に側溝に蓋がなかったためにお年寄りがはまって、足を捻挫した人や手首を骨折した人がいました。そこで春になり、蓋をするには



はやし しんいちろう
林 新一郎市長

どうしたらいいのか考え、役所の担当課に相談し、蓋を支給していただいて近所のみんなで協力して整備しました。

「これで今年は道も広くなったし安心だ」とけがをされた人たちに大変喜ばれました。

私はこれも、ボランティアだと思いません。自分たちのまちづくりのために、地域のみなさんが知恵





を出し合えば、行政にお願いしなくても自分たちだけで出来ることはたくさんあると思います。

赤羽さん

みなさんご承知のように広域合併、湖周合併が破綻しました。現在の財政改革に向けては、私たちもできる限りの知恵を出し合っていないといけないと思います。行政に頼るだけでなく、市民一人ひとりがやっていく努力が非常に重要であると思います。

それから市民と行政との距離ですが、以前よりはるかに良くなりましたが、まだ幾分あるのかなと感じます。素直なところがなかなか出てこない、区に対して行政が遠慮しているところがあるように感じます。行政は遠慮せず、どしどし言って欲しいと思います。岡谷市のためにはその辺の改革も必要ではないかと思えます。



お 夫 さん
はる 晴 さん
あかはね 赤羽 さん

大変貴重なご意見をいただきました。ボランティアと聞くと身構えてしまう、組織に入らされ拘束を受けてしまうのではないかとつい思ってしまう。しかし、街路樹に水をあげる、落ちているゴミを拾う、

廣瀬さん

私も岡谷ボランティア会を仲間と一緒にやっていますが、要は宮入さんがお話したように構えてしまいう形ではなく、自然な形の中で助け合っていくことが大切だと思います。

市民総参加・協働によるまちづくりには、赤羽さんからのお話がありました。岡谷市が市民にどんなことをしてもらいたいのか、迷っていることがあったらどんなに出してほしい。市民に対しての発信が欲しいと思います。

同時に私たち市民は市に頼るのではなく、自分たちの力で何をしたら市のためになるのか、どんなことが出来るのかという協働の精神を持つことが大切ではないかと思えます。

市長

ともに夢のあるまちを目指して

企画部長《進行》

道端の雑草を抜く、そういったことも大変なボランティア活動であると思いますし、市民総参加のまちづくりにつながっていくことであると思います。まちづくりは身近なところから参加できるんだ、ということを通して全市民に知っていただきたいと思っています。これは、隣人同士の信頼関係にもつながっていくことだと思います。

現在、岡谷の各地区に地域サポートセンターが立ち上がりつつあります。地域福祉ということで区長さんをはじめとし、地区社協のみなさんとが手携えを携えていただいで、各地区の福祉を充実させていきたいと思います。

今後は市民と行政が手を携え、協働によるまちづくりを進めていかなければならないわけですが、これから目指すまちづくりや、こんな岡谷になればというような未来に羽ばたくような夢について最後に聞かせてください。

宮入さん

夢とは他人が創るものではなくて、自分で創っていくものだと思います。市民のみなさんがやる気

赤羽さん

今、盛んに言われていることは民間の活力をとということですが、これを大きく前面に出していただき、住民福祉の増進と健全財政を維持しつつ、市民が主役だということを考えていただきたい。それから、市民と行政がお互いに理解を深めていただき、躍動感のあるまちづくりを進めていただきたい。夢を夢だけで終わらせないようにやってほしいと思います。

廣瀬さん

夢のあるまちづくりとは、「子どもたちがこのまちに住んでいて良かった、成人してもこのまちに帰って来たい」そう思えるようなまちづくりが大事ではないかと思っています。岡谷には他に例のない子育て憲章がありますし、昨年9月からはファーストブック事業が開始されました。それから学校での朝読タイムの実施、各図書館活動と非常に子どもたちの支援事業は進んでいると思います。

現在、一番問題になっているこ

